

<p>事業名</p>	<p>九州共立大学による北九州地区を対象としたアダプテッドスポーツの展開 ー世代を超えたアダプテッドスポーツの実践が多世代共生型コミュニティを創出するー</p>
<p>事業概要</p>	<p>子どもと高齢者を包括した世代間交流の活性化に向けては、両者の運動・スポーツ実施に関わる情報支援や活動を実施するために必要な機会の設置を目的とした施策を打ち出すことが求められる。申請団体は、子どもと高齢者の世代間交流を活発化させるための機会・情報支援として、次に示す事業を遂行する。</p> <p>(1) 個人の身体能力や年齢、障がいの有無などにとらわれず、ルールや用具を工夫することで各人に適合させた、「アダプテッドスポーツ体験会」を3回開催する。</p> <p>(2) 世代間交流を促進するための機会として、子どもと高齢者、大学生の組み合わせによる市町合同チーム対抗による、「楽しみ、笑い、交わる」をテーマとしたアダプテッドスポーツ運動会を開催する。</p>

■対象地域の課題

- ・世代間交流の欠如
北九州地区では、女性や若者の県外就学が活発的に進む。子どもが高齢者や地域の様々な世代と触れ合う機会が少なくなり、子どもが人間関係を構築する能力をいかに育成するかが課題となる。さらに、高齢者の社会的孤立が課題とされ社会活動への参加が行政により推奨されているが成功事例は限定的である。
- ・運動・スポーツ指導者の高齢化
少子高齢化の進行に伴い、対象地域においても住民の運動・スポーツ活動を支援する人材が不足し後継者がいないチームやクラブが生じてきている。さらに、若手の指導者育成を目的とした講習会や体験会なども実施されてきているが、大学生を中心とした指導現場は十分に設けられていない。

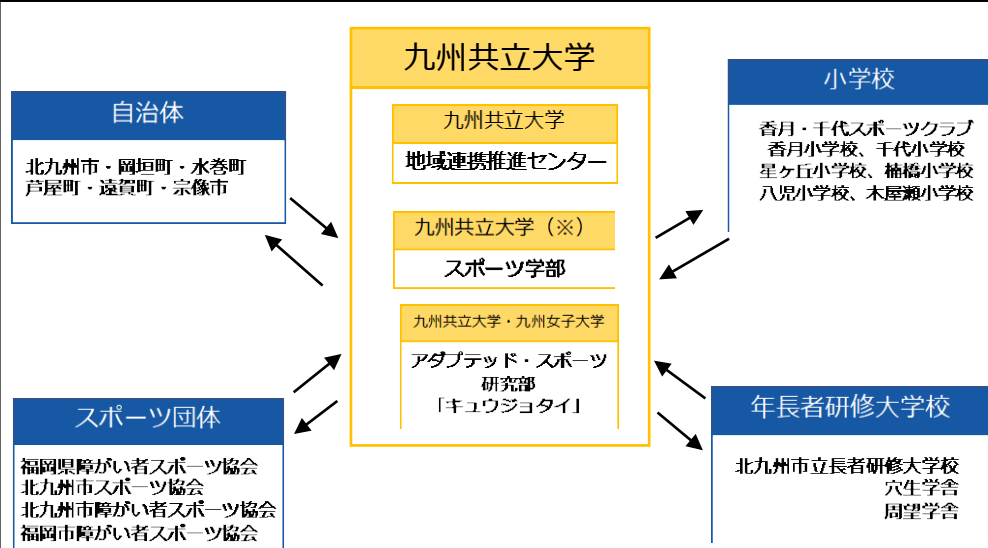
■活用する大学スポーツ資源

- ・学生と教員の活用
学生が中心となり体験会や運動会などで、世代間交流の活性化を目指すために、大学の授業で習得した知識を活用し、各行事でのファシリテーターや補助員を担当する。さらに、教員が、各種事業の実施による参加者や地域に与えた影響や効果を検証するために、定量・定性的な分析を行い、実施する事業が一過性のものとならず次年度以降も事業の継続化を実現するための工夫を凝らしたプログラム立案と評価を行う。
- ・教育/研究施設と設備の活用
大学のスポーツ施設や設備を活用して、地域の活性化に資するアダプテッドスポーツ体験会や運動会を実施する。また、申請団体内に設置されている「地域連携推進センター」を活用し、地域における世代間交流の活性化の実現に向け、大学の近隣自治体やその他団体が有する資源の交換を交わし、補完し合うための地域間交流に必要な機会を設置する。

■期待される事業効果

- <子ども> アダプテッドスポーツ体験会や運動会を通じて、自身の運動能力の向上と他者に対する共感力を養う。
- <大学生> あらゆる世代の対象者との関わりを通じ、普段の授業の中で培った知識を活用し状況を見極め適切な判断を下すための能力を構築する。
- <高齢者> 身体を動かすことの楽しさを体感かつ習得し、プログラム以外の時間で定期的に運動・スポーツに参加することで身体的効果が実現する。

■事業の実施体制図 (学内体制に留まらず、地域の組織・団体との連携体制も示すこと)



※申請団体は、上記に示す連携団体と対象地区における課題に対する共通認識を形成しており、既に、本事業の実施に向けた連携体制についても構築しております。